

1. 手話奉仕員養成カリキュラム

対象者	日本語で日常会話ができ、手話の学習経験がない者等			
養成目標	聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する法律・制度等についての理解と認識を深めるとともに、コミュニケーションにおいて活用できる基礎的な手話の技能を身に付ける。			
カリキュラム構成	入門課程	35 時間	到達目標	あいさつや自己紹介程度であれば、相手の簡単な話を理解し、会話が可能なレベル
			養成目標	①簡単な日常会話に必要な語彙（目標語彙数 600 語）を習得する。 ②簡単な日常会話に必要な基本的な表現を習得する。 ③音声言語と手話のしくみの違いを理解する。
			カリキュラム	〔別表 1〕
	基礎課程	35 時間	到達目標	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、相手の話を理解し、簡単な語句や基本的な表現を用いて会話することが可能なレベル
			養成目標	①日常会話に必要な語彙（目標語彙数：600 語に新たに 400 語を追加）を習得する。 ②日常会話に必要な基本的な表現と読み取り能力を習得する。 ③会話を通して実践的なコミュニケーション能力を習得する。
			カリキュラム	〔別表 2〕
合計		70 時間		

別表1 手話奉仕員 入門課程カリキュラム

	教科名	時間数	目的 (学習の目標)	内 容	講義担当 職種例
講義	聴覚障害の基礎知識	1.5	耳の仕組みや聴覚障害の原因を理解するとともに、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。	1 障害の見方 2 耳の働き、聞こえの仕組み 3 身体障害者福祉法における障害認定 4 ことばの獲得・習得と発達 5 補聴器と人工内耳 6 コミュニケーション方法と対応・支援	講師養成研修修了者 聴覚障害特別支援学校(ろう学校)教員等 学識経験者
	手話の基礎知識(ことばの仕組みⅠ [手話])	1.5	日本の手話の歴史及び特徴を理解する。	1 身振りと言語の違い 2 手話と音声言語の違い 3 日本の手話の歴史 4 標準手話と地域の手話	講師養成研修修了者 学識経験者
	聴覚障害者の生活	2	聴覚障害者の日常生活とその課題や対応方法を理解する。	1 聴覚障害者(ろう者、難聴者、中途失聴者、盲ろう者等)の障害特性とアイデンティティ 2 家族とのコミュニケーションと生活 3 地域の人々とのコミュニケーションと生活 4 家庭生活、社会生活でのコミュニケーション(保育、教育、医療等) 5 職場でのコミュニケーション	講師養成研修修了者 聴覚障害者
実技	手話との出会い	15	1 手話表現の基本を理解する。 2 場面に応じたあいさつができる。 3 簡単な日常生活の表現ができる技能を習得する。 4 日本語(音声言語)と手話の違いを理解する。 5 身の回りのことを表現する基本的な手話語彙を習得する。	1 あいさつ・自己紹介 2 数字・自己紹介 3 地名・自己紹介 4 職業・自己紹介 5 時間表現(1日の生活) 6 気持ちを表す表現・表情や強弱 7 疑問詞の表現 8 指文字 9 総合練習(自己紹介)	講師養成研修修了者
	語彙を増やす	15	1 日常会話の表現を見て理解する力を高める。 2 手話の語彙を増やし、使い方を習得する。 3 手話構文の組み立て方を習得する。	1 時に関わる表現(1週間、1年等) 2 スポーツや趣味の表現 3 繰り返し表現 4 具体的表現(形や動作のCL表現) 5 空間の活用(位置、方向) 6 否定の表現 7 身体の状態の表現 8 他の人の話を伝える表現(動詞の動き) 9 さまざまな場面での会話練習・手話によるスピーチ	講師養成研修修了者
	合 計	35			

※ 聴覚障害者が講義を担当する際には、適宜、手話通訳が必要である。

(注1) CL表現：手話では、話者が物の形や動き、物を動かす様子などを述べる時に、特定の手指を物に見立てて表現する方法がある。日本語の助数詞が対象物の属するカテゴリーに応じて選択されることと同様に、手話でも対象物の属するカテゴリーに応じて適切な手指が選択されることとなり、この手指を言語学の研究では「Classifier(類別辞)」と呼ぶ。これを略した用語「CL(シーエル)」が世界各地の手話指導現場等で広く使用されている。この用語を用いて「具体的表現(CL表現)」とする。

別表2 手話奉仕員 基礎課程カリキュラム

	教科名	時間数	目的 (学習の目標)	内 容	講義担当 職種例
講義	障害者福祉の基礎	2	障害者権利条約に至る障害者に関わる国際的な歴史、理念等障害者福祉の概要を理解する。	1 障害者福祉の歴史・基礎的理念・発展 ①リハビリテーション ②ノーマライゼーション ③バリアフリー ④ICF (国際生活機能分類) 2 障害者権利条約の基礎的概念 ①障害の概念 ②合理的配慮 ③インクルージョン	講師養成研修修了者 福祉関係職員
	聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度	2	聴覚障害者活動の歴史を学習することにより、時代背景と聴覚障害者の要望、関連する聴覚障害者福祉制度を理解する。	1 聴覚障害者組織等の活動と歴史 2 人権確立に向けた活動と成果 3 手話通訳制度化に向けた活動と成果 4 災害救援活動の内容と成果	講師養成研修修了者 聴覚障害者団体役員 福祉関係職員
	ボランティア活動	1	ボランティア活動 (手話奉仕員活動) の概念、心構え等を理解するとともに、手話サークル等への参加意欲を高める。	1 ボランティア活動の概念 2 今日のボランティア活動の特徴と課題 3 ボランティア活動にあたっての心構え 4 地域手話サークル活動の紹介	講師養成研修修了者 福祉関係職員
実技	手話の基本文法	15	1 日本の手話の基本文法を習得し、表現と読み取り能力のレベルアップを図る。 2 手話語彙を増やし、使い方を習得する。	1 具体的表現 (CL表現) 2 「誰が」、「誰に」の表現 (動きの方向の変化) 3 同時表現 (両手の活用) 4 空間の活用 5 代理的表現 6 指さしの活用 7 役割の切り替え (ロールシフト)	講師養成研修修了者
	会話力	15	1 習得した手話語彙や基本文法を基に、相手に伝達する能力のレベルアップを図る。 2 聴覚障害者との手話による会話を通じ、実践的なコミュニケーション能力を習得する。	1 会話の力を高める表現 2 さまざまなテーマでの会話・スピーチ練習 3 手話によるスピーチとろう者とのディスカッション	講師養成研修修了者
	合 計	35			

※ 聴覚障害者が講義を担当する際には、適宜、手話通訳が必要である。

(注1) ロールシフト：手話では、自身の体験や映画のワンシーンなどを話す時に、話者がある人物や動物になりきって、その発話や行動を描写する方法がある。主として上体を前後左右に動かし、表情を使い分ける、この方法 (役割の切り替え) を手話指導現場等では「ロールシフト」と呼ぶ。